



消防くん for Windows

Version 4

補足マニュアル

目次

1	データベースサーバインストール	3
1	データベース(PostgreSQL)サーバインストール	3
2	データベースの動作確認	6
3	データベースアクセス範囲の設定	8
4	Windows ファイアウォールの設定	11
5	データベース管理ツールのインストール	15
6	ユーザー（利用者）の登録	18
2	クライアント（報告書作成・様式編集）のインストール	19
1	クライアントプログラムのインストール	19
	新規に Version4 をインストールの場合	19
2	「消防くん」の起動とデータベースへの接続確認	22

1 データベースサーバインストール

1 データベース(PostgreSQL)サーバインストール

本資料では、「消防くん for Windows」で使用する、データベースサーバの設定手順をご説明します。

・データベースのインストール

1. 「消防くん」の CD を挿入してください。
2. メニューが起動しない場合は、エクスプローラで CD の内容を表示し、CBOCD.EXE 実行ファイルをダブルクリックしてください。

名前 ▲	サイズ	種類	更新日時
files		ファイル フォルダ	2012/12/28 8:52
Manual		ファイル フォルダ	2012/12/12 14:31
PDF		ファイル フォルダ	2012/12/12 14:31
PostgreSQL8.3		ファイル フォルダ	2012/12/12 14:31
SYSTEM		ファイル フォルダ	2012/12/12 14:31
AUTORUN.INF	1 KB	セットアップ情報	2006/04/28 16:21
CBOCD.EXE	278 KB	アプリケーション	2000/11/10 9:36
CBOCD.INI	2 KB	構成設定	2013/02/04 18:07
msxmljpn.msi	5,231 KB	Windows インストーラ...	2009/06/05 11:00
pginstall.vbs	1 KB	VBScript Script File	2013/02/01 18:09
postgresql-9.1.6-1-windows.e...	47,405 KB	アプリケーション	2012/12/06 14:44
README.txt	1 KB	テキスト文書	2011/04/15 6:20
update.html	1 KB	Chrome HTML Doc...	2012/03/29 11:23
UPGRADE.bat	2 KB	MS-DOS バッチ ファ...	2011/04/15 6:20
vcredist_x86.exe	2,643 KB	アプリケーション	2011/04/15 6:20

3. メニューより、データベースサーバー(PostgreSQL)のインストールをクリックします。

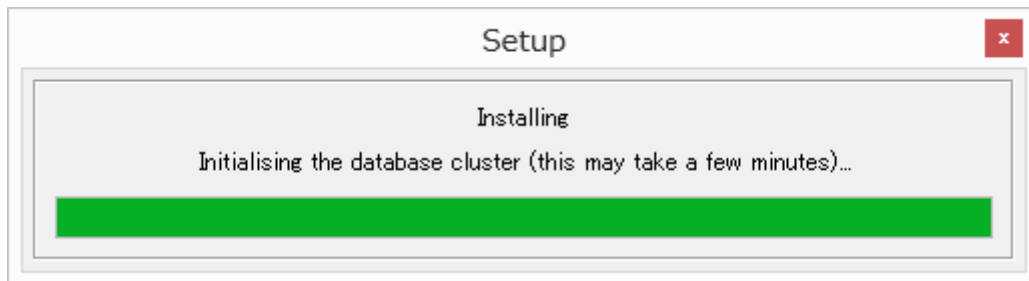


Windows のバージョンまたは設定によって、下記のような画面が表示されます。



「はい」 をクリックして、インストールを開始してください。

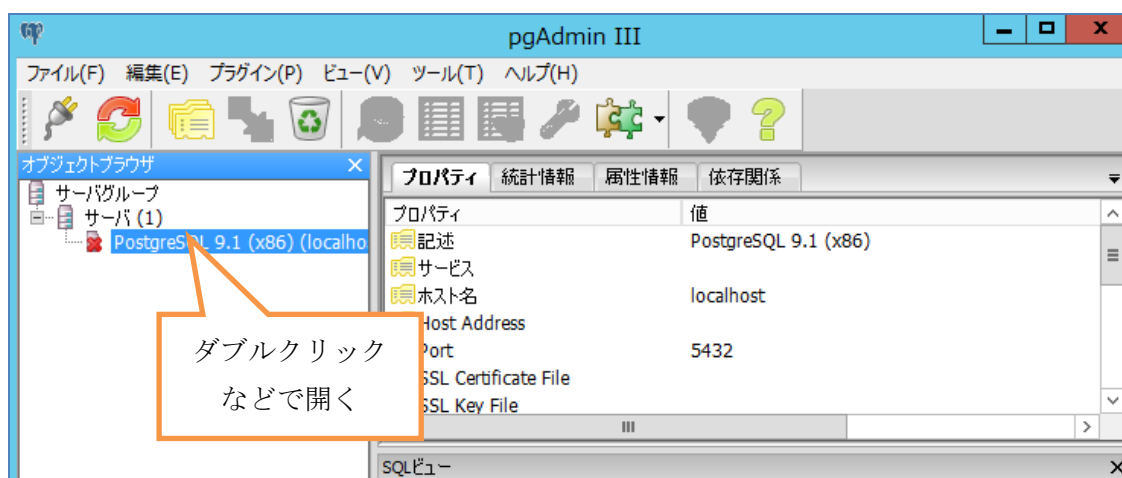
データベースのインストール中は、下記のような進行状況が表示されます。



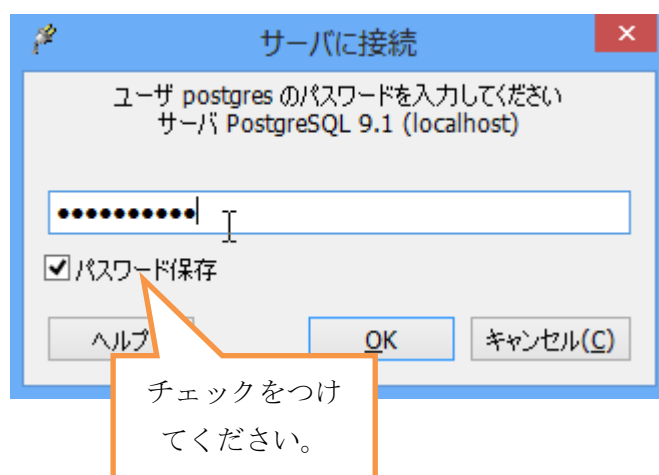
インストールには、状況により数分～十数分かかる場合があります。
画面が自動で閉じるまで、そのままお待ちください。

2 データベースの動作確認

1. スタートメニュー等から、「pgAdmin III」を起動してください。
2. 「サーバーグループ」から、PostgreSQL 9.1(localhost)を選択し、ダブルクリック等で開いてください。



3. 下記のような画面が表示されますので、「パスワード保存」をチェックし、「postgres」と入力してください。



- 4.
5. 下記のような画面が表示されますので、「再びこのヒントを表示しません」をチェックし、OK ボタンを押してください。

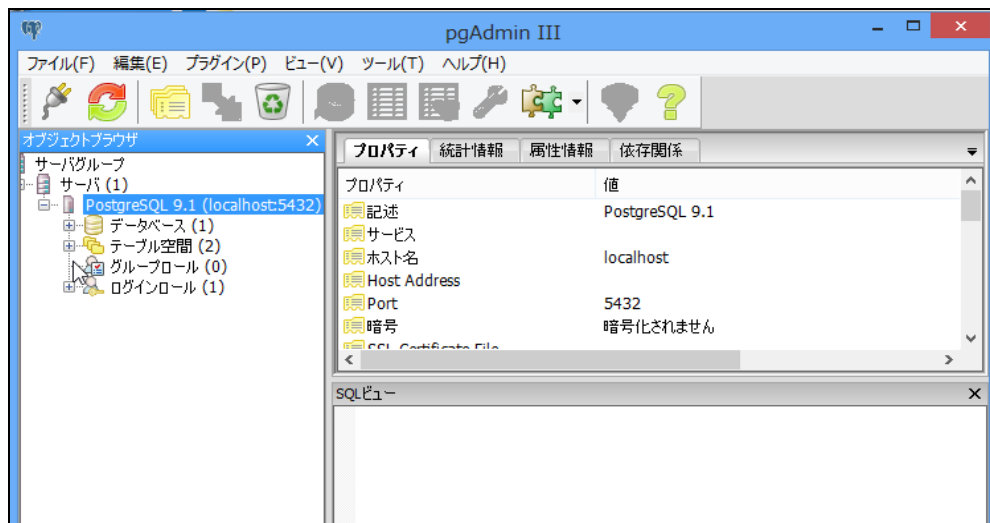


下記のようなメッセージが出る場合には、データベースが起動していないか、正常に動作していない可能性があります。



一度サーバーを再起動して頂くと、正常に接続できる場合がありますので、お試しください。

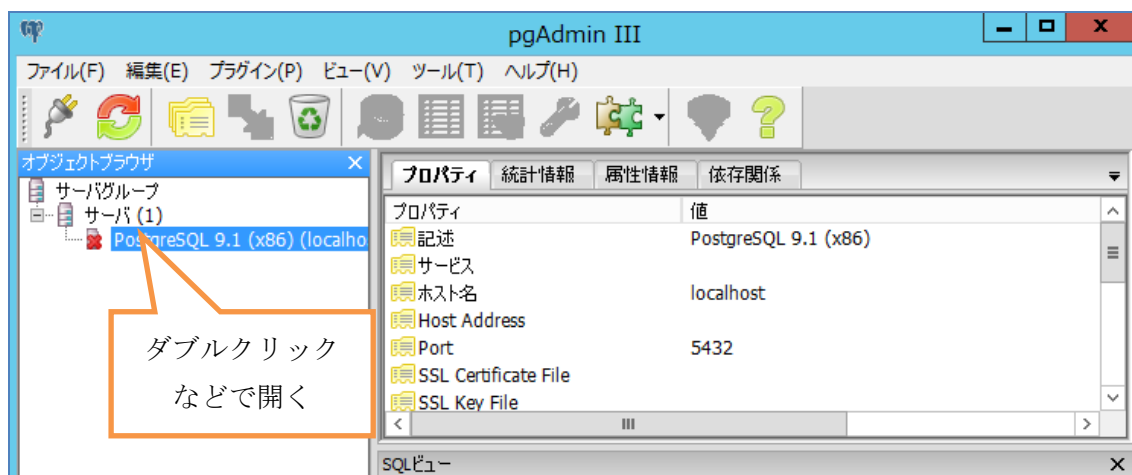
6. 下記のように、ツリーが開けば成功です。pgAdminIIIを終了してください。



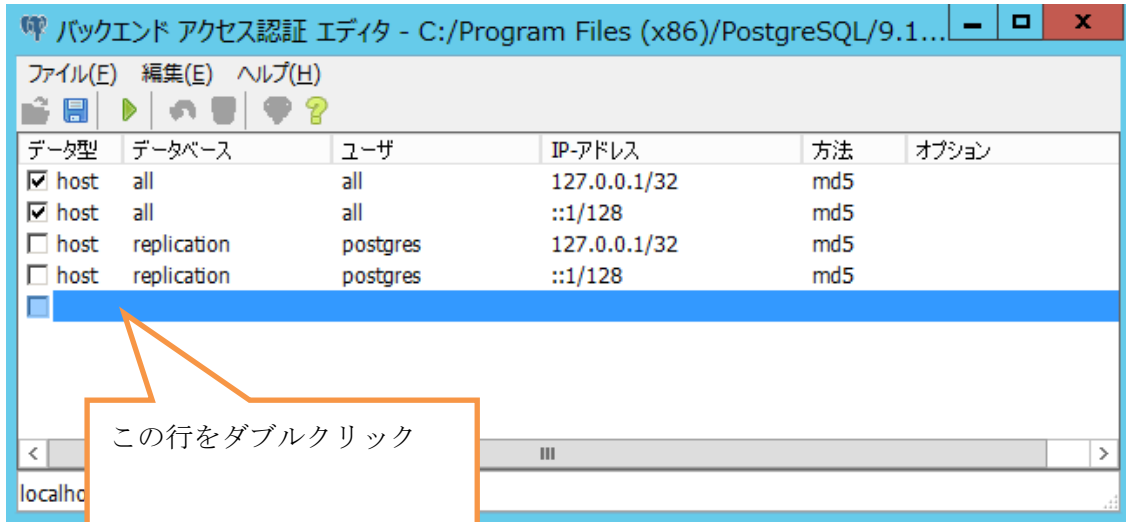
3 データベースアクセス範囲の設定

以降は、「消防くん Ver.4」を複数台でご利用いただく場合の設定です。

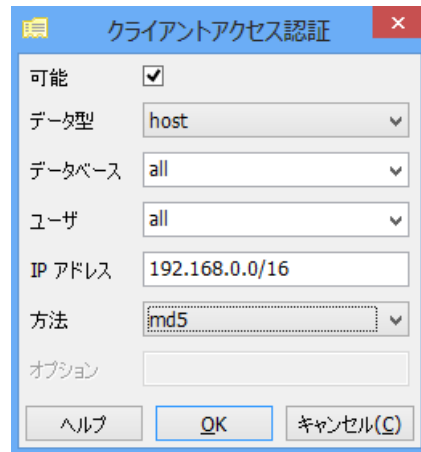
1. スタートメニュー等から、「pgAdmin III」を起動してください。
2. 「サーバーグループ」から、PostgreSQL 9.1(localhost)を選択し、ダブルクリック等で開いてください。



3. 「ツール」メニューの「サーバー構成」より、pg_hba.conf を選択します。
4. 「バックエンドアクセス認証エディタ」で、一番下の空白行をダブルクリックします。



5. 「クライアントアクセス認証」画面で、下記のように変更し、OK ボタンを押してください。



クライアントアクセス認証

可能

データ型 host

データベース all

ユーザ all

IP アドレス 192.168.0.0/16

方法 md5

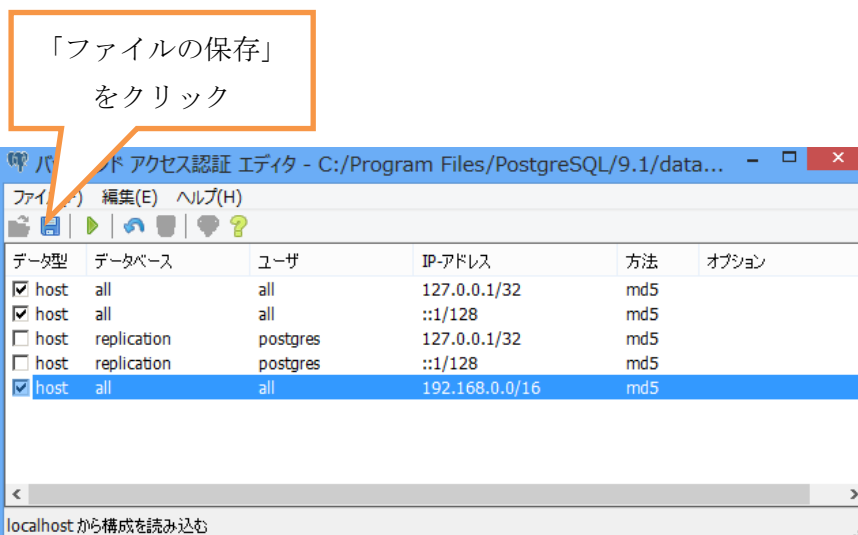
オプション

ヘルプ OK キャンセル(C)

通常はこの設定では、お客様社内ネットワークに接続されているほぼすべての端末からの接続が可能となります。

注)ほとんどの場合は、この設定で問題ありませんが、お客様のネットワークによっては、設定を変更が必要になる場合があります。この場合は、お客様ネットワークの管理者様にご相談ください。

「ファイルの保存」を押して、設定を保存します。



ここまで完了したら、一度コンピュータを再起動してください。

4 Windows ファイアウォールの設定

ローカル接続以外の複数台で「消防くん」をご利用になる場合は、Windows ファイアウォールの設定が必要となります。

1. Windows のコントロールパネルを開きます。

Windows7/Server 2008:

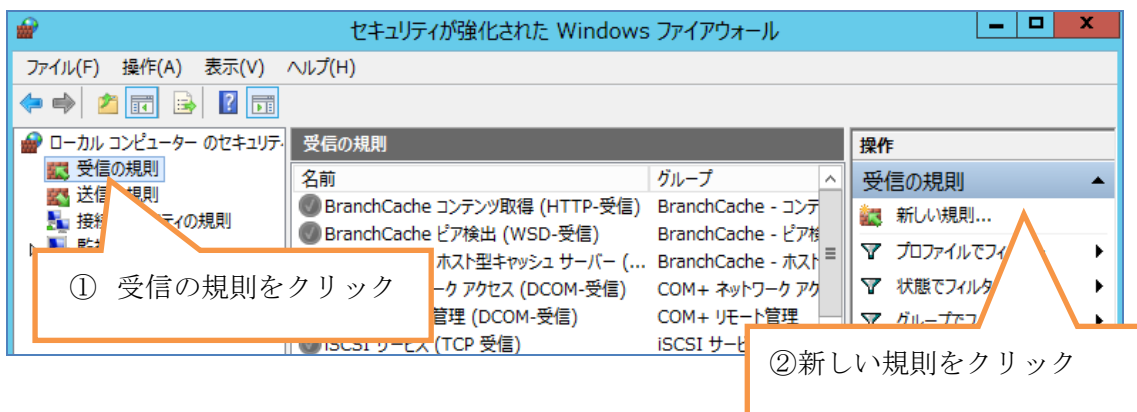
スタートメニューよりコントロールパネルを選びます。

Windows8/Server2012:

- ・スタート画面より、デスクトップを表示します。
- ・マウスを右上または右下隅に移動し、チャームを表示します。
- ・チャームの「設定」をクリックし、つづいて表示される「コントロール パネル」をクリックして開きます。



2. システムとセキュリティ、Windows ファイアウォール を順に開き、「詳細設定」をクリックします。
3. ローカルコンピュータのセキュリティから、「受信の規則」をクリックし、「新しい規則」をクリックします。



4. 下記のように設定を追加してください。

- 規則の種類で、「ポート」を選択して「次へ」をクリック

どの種類の規則を作成しますか?

プログラム(P)
プログラムの接続を制御する規則です。

ポート(O)
TCP または UDP ポートの接続を制御する規則です。

事前定義(E):
BranchCache - コンテンツ取得 (HTTP を使用)
Windows エクスペリエンスのために接続を制御する規則です。

カスタム(C)
カスタムの規則です。

・プロトコルとポートの指定

プロトコルで「TCP」を選択し、「特定のローカルポート」を選択して、ポート番号として 5432 を入力し、「次へ」を押します。

TCP と UDP のどちらにこの規則を適用しますか？

TCP(T)
 UDP(U)

すべてのローカル ポートと特定のローカル ポートのどちらを対象にこの規則を適用するかを選択してください。

すべてのローカル ポート(A)
 特定のローカル ポート(S):
例: 80、443、5000-5010

・操作の指定

「接続を許可する」を選択して「次へ」を押します。

接続が指定の条件に一致した場合に、どの操作を実行しますか？

接続を許可する(A)
IPsec を使用して保護された接続と保護されていない接続の両方を含みます。

セキュリティで保護されている場合のみ接続を許可する(C)
IPsec を使用して認証された接続のみを含みます。接続は、IPsec プロパティ内の設定と接続セキュリティ規則ノード内の規則を使用して、セキュリティ保護されます。

接続をブロックする(K)

- ・ プロファイルの指定

通常はそのまま「次へ」を押してください。

この規則はいつ適用しますか?

- ドメイン(D)**
コンピューターがその企業ドメインに接続しているときに適用されます。
- プライベート(P)**
コンピューターが自宅や職場などのプライベート ネットワークに接続しているときに適用されます。
- パブリック(U)**
コンピューターがパブリック ネットワークに接続しているときに適用されます。

- ・ 名前の指定

名前に PostgreSQL と入力し、「完了」 ボタンを押してください。

名前(N):

説明 (オプション)(D):

- ・ **Windows** ファイアーウォール以外のセキュリティソフトの設定

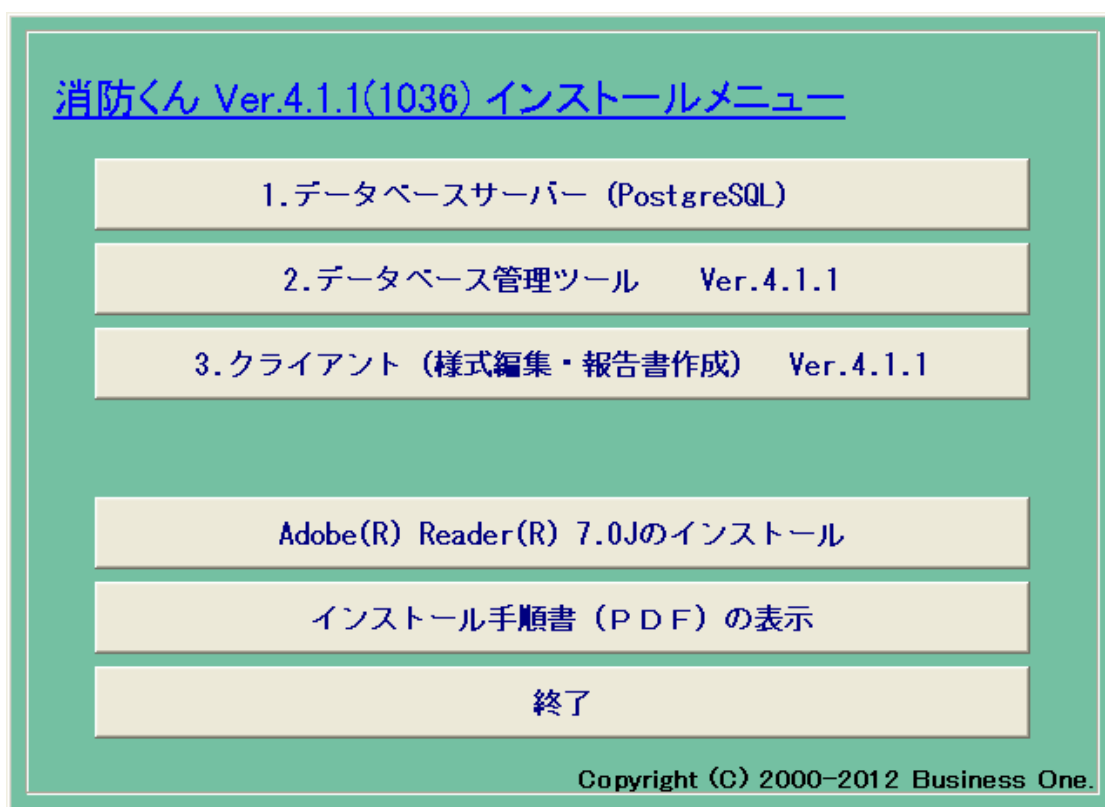
設定方法は、各セキュリティソフトにより異なりますので、お客様ネットワークのセキュリティ管理者様にご確認ください。

5 データベース管理ツールのインストール

データベース管理ツールは、「消防くん」で使用するデータベースを管理するためのプログラムです。

データベース管理ツールは、PostgreSQLを導入したサーバーにインストールして頂く必要があります。

①インストールメニュー画面を再度表示します。



②[2.データベース管理ツール]ボタンをクリックします。

③インストール先を選択し、表示される画面に従ってインストールを行ってください。

データベース管理ツールの起動

デスクトップに作成されるデータベース管理ツールのアイコンより、データベース管理ツールを起動してください。

ユーザー情報とライセンスの登録

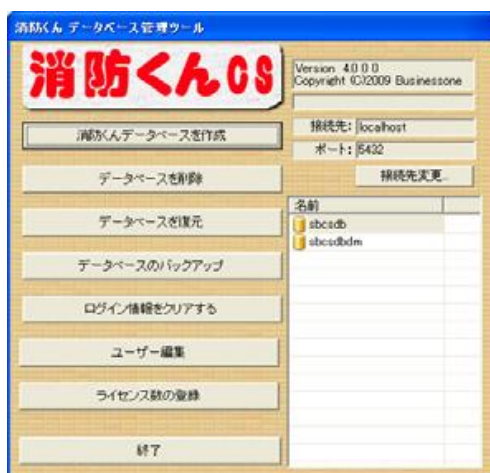
管理ツールの初回起動時、シリアル番号の登録が必要になります。ユーザー情報の登録の際には、管理用のパスワードをお送りするために、有効なメールアドレスが必要となります。

別添の手順書に従って、シリアル番号を登録し、メールにて受け取ったパスワードを使用して、ユーザー情報とライセンスを登録してください。

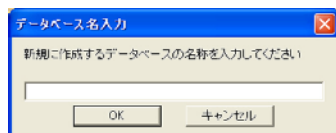
データベースの作成

[データベースサーバ]や[データベース管理ツール]のインストールが完了しても、消防くんを起動・使用できる状態ではありません。(共有データの保存先となるデータベースがありません。) そのため「データベース管理ツール」を起動し、データベースの作成と初期データのインストールを行ってください。

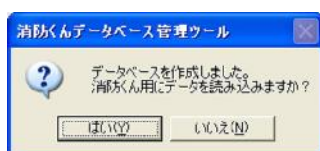
- ① 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「消防くん for Windows」→「データベース管理ツール」を順に選択します。
- ② 管理ツールの画面が表示されます。「消防くんデータベースを作成」ボタンをクリックします。



③ 半角英数のみでデータベース名を入力します。1つ目については標準名の”sbcsdb”が入力されていますので、そのまま作成します。



④ 作成後に以下のメッセージが表示されます。「はい」を選択し、消防くん(報告書作成・様式編集)の動作に必要な初期データのインストールを行ってください。



通常は数分以内に処理が終了します。処理が終了しない場合は、一度データベース管理ツールを終了し、本マニュアルの「データベースの動作確認」の項目の手順に従って、データベースの動作の確認を行ってください。

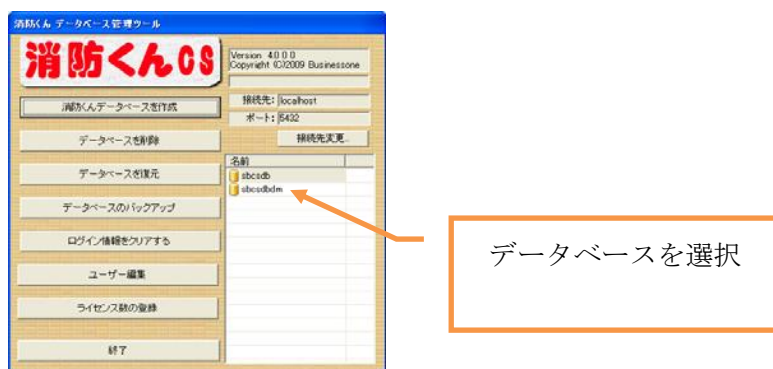
6 ユーザー（利用者）の登録

消防くん for Windows ではデータベースへの操作が重複しないように、ユーザー管理を行っています。

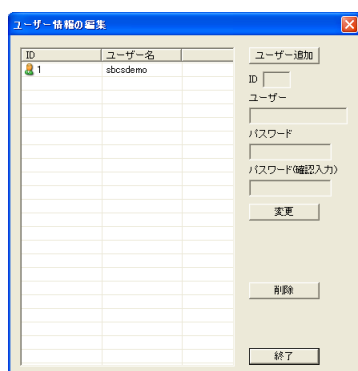
データベースを作成した時点で、利用可能なユーザー名として、「ユーザー1」～「ユーザー5」が登録されていますので、そのままご利用いただくことも可能です。

任意のユーザー名を登録したい場合や、ユーザーの追加を行う場合は、下記手順に従って登録を行ってください。なお、登録ユーザー数に制限はありません。

- ① 作成されたデータベース名を右の一覧から選択し、「ユーザー編集」ボタンをクリックします。



- ② 「ユーザー追加」ボタンをクリックします。空欄になっているユーザー名を入力し、パスワードを付加する場合は、パスワード欄・パスワード（確認入力）欄に入力し「変更」ボタンで登録します。



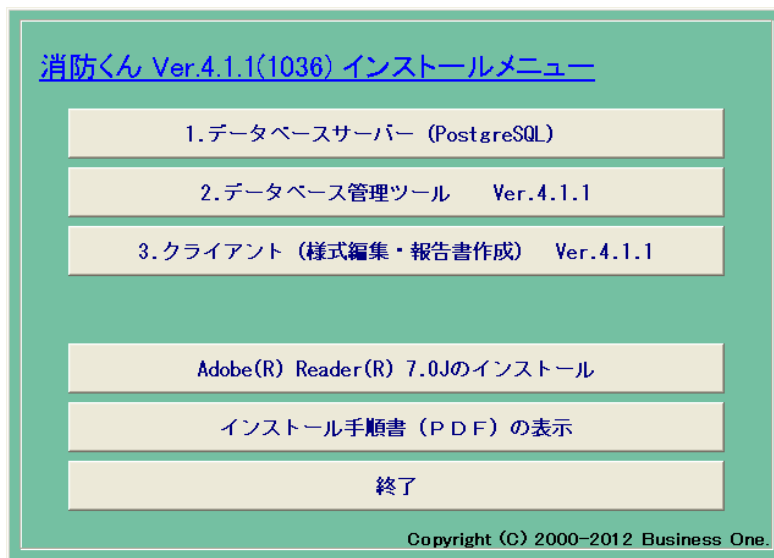
- ③ 複数登録する場合は、さらに「ユーザー追加」ボタンをクリックします。登録が完了したら、「終了」ボタンをクリックします。

2 クライアント(報告書作成・様式編集)のインストール

1 クライアントプログラムのインストール

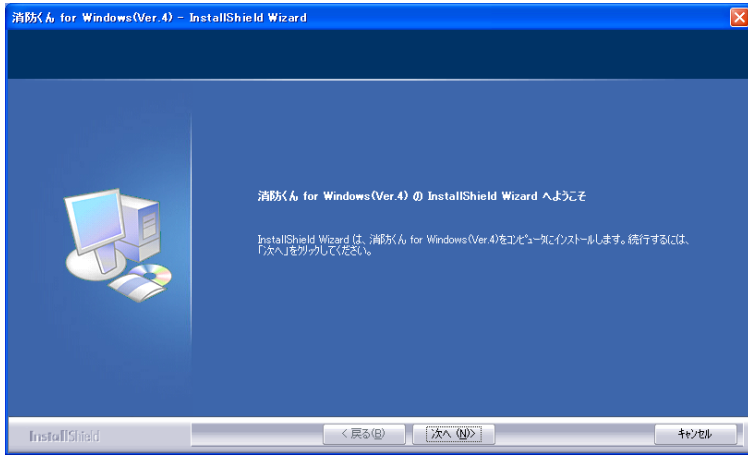
新規に Version4 をインストールの場合

- ① 【消防くん for Windows セットアップ CD】を CD-ROM ドライブに挿入してください。
しばらくすると、以下のインストール項目の選択画面が表示されます。

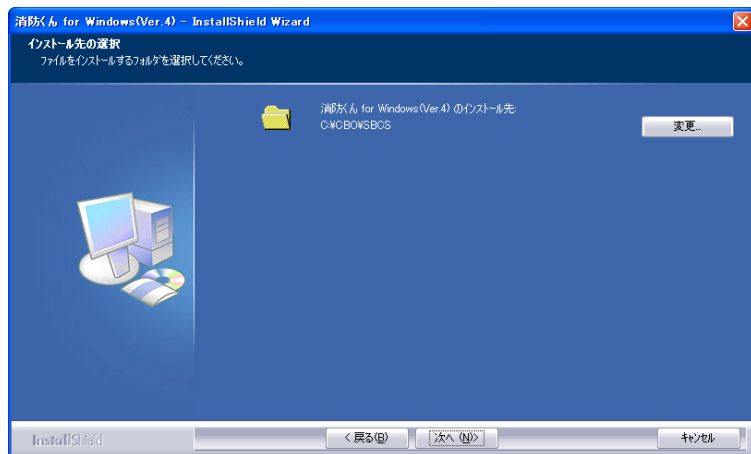


注)上の画面が表示されない場合は【マイコンピュータ】－【CD-ROM】ドライブ【C:\BOCD. EXE】を順に左でダブルクリックします。

- ② 「3.クライアント (様式編集・報告書作成)」 ボタンをクリックします。
③ 「次へ」 ボタンをクリックします。



- ④ インストール先を選択し、「次へ」ボタンをクリックします。



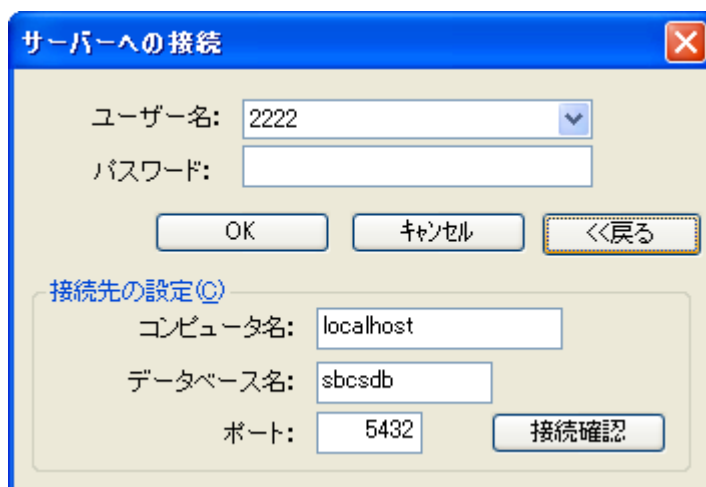
- ⑤ 「報告書作成」と「様式編集」の動作に必要なファイルがセットアップされます。

2 「消防くん」の起動とデータベースへの接続確認

- ① デスクトップに作成される、報告書作成のアイコンより、「報告書作成」を起動します。
- ② 「サーバーへの接続」画面でユーザー名を選択し、OK ボタンを押してください。

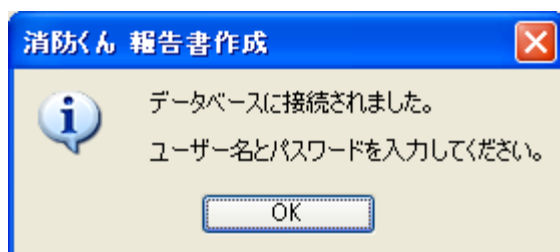


- ③ ユーザー名が選択できない場合は、下記のように設定を行ってください。
 - (1). 「接続先設定」ボタンを押します。
 - (2). 接続先のコンピュータ名に、PostgreSQL を導入したサーバ名、または IPV4 アドレスを入力してください。データベース名を変更した場合は、データベース名も設定してください。



- (3). 「接続先確認」のボタンを押してください。

(4).下記のように表示されれば、接続は成功です。ユーザー名を選択して、「OK」ボタンを押してください。



(4).正常に接続できなかった場合、下記のように表示されます。



この場合は、データベースサーバに正常に接続できない状態です。
データベースの導入が正常に終了している場合は、本マニュアルの「データベースアクセス範囲の設定」および、「セキュリティの設定」を再度ご確認ください。

